

平成24年度 自己点検・評価の内容

4年制博士課程を設置する各大学は、平成24年度は以下の点について、自己点検・評価を行い、その内容を次ページ以下の様式により、8月31日までにホームページで公表するとともに、そのURLを薬学系人材養成の在り方に関する検討会へ報告するものとする。

作成に当たっては、理念とアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーの一貫性に留意すること。

- 理念とミッション
- アドミッションポリシー
- 受験資格
- 入学者選抜の方法
- 入学者数(平成24年度)
- カリキュラムポリシー
- カリキュラムの内容
 - ・ シラバス
 - ・ 教育課程等の概要(別紙様式第2号)
 - ・ 履修モデル
- 医療提供施設との連携体制
- 学位審査体制・修了要件
- ディプロマポリシー
 - ・ 養成する人材像

自己点検・評価 様式

大学名 徳島文理大学大学院

研究科・専攻名 薬学研究科

入学定員 6 名

○ 理念とミッション

(申請時の理念と目的)

本研究科は、臨床的課題に主軸をおいた研究領域において、医療薬学分野と基礎薬学分野が融合した薬学の特色を生かした教育・研究を推進する。これにより、自然科学に裏付けられた実際的で高度な専門的知識・技術を修得し、創造力・判断力を含む問題提起能力と問題解決能力の研鑽を積んで、探求心と向上心、研究者としての独創性、さらには医療人としての広い視野と高い倫理観を身に付け、医療現場で薬物治療の専門職として指導的役割を果たす薬剤師及び医薬品開発の中心的な役割を担える研究者を養成する。これらの教育を通して、国民から信頼され、尊敬され、人類の健康増進に真に奉仕し、地域社会の発展に貢献する人材の育成を図ることを目的とする。

本大学院においては臨床的課題に主軸をおいた研究領域において、薬学の特色である「医療薬学分野と基礎薬学分野が融合」した教育・研究を推進する。この理念に基づいて、自然科学に裏付けられた実際的で高度な専門的知識・技術を修得し、創造力・判断力を含む問題提起能力と問題解決能力の研鑽を積み、探求心と向上心、研究能力を備えた薬剤師としての独創性と医療人としての広い視野と高い倫理観を身に付けることをミッションとする。

自己点検・自己評価

本大学院においては日本赤十字社徳島赤十字病院、国立大学法人高知大学医学部および香川大学医学部との連携を軸に「医療薬学分野と基礎薬学分野が融合」した教育・研究を推進している。また臨床的な課題を対象とする研究能力を持つ薬剤師を輩出するためには高い教育力が必須であるが、本大学院には日本生薬学会賞はじめ国内外の学会等から授賞を受けたスタッフが教育に密に携わっており、高いレベルでの教育を提供できていると考えられる。これらのことから、本大学院の理念とミッションを具現化できうると判断できる。

- ・ 理念とミッションが薬学系人材養成の在り方に関する検討会から提言されている「医療の現場における臨床的な課題を対象とする研究領域を中心とした高度な専門性や優れた研究能力を有する薬剤師などの養成に重点をおいた臨床薬学・医療薬学に関する教育研究を行う」という4年制博士課程の主たる目的に照らし合わせ、相応しいものとなっているか自己点検・評価すること
- ・ 以下についてはこれらを留意して記載すること

○ アドミッションポリシー

医療・医薬品開発現場の中心的役割を担える薬剤師や研究者になることを希望する学生を求め、探究心と向上心、研究能力を備えた薬剤師としての独創性、さらには医療人としての広い視野と高い倫理観を身につけ、医療現場で薬物治療の専門職として指導的役割を果たす薬剤師、ならびに医薬品開発の中心的な役割を担える研究能力を備えた薬剤師や研究者になることを希望する人材及び、人類の健康増進に奉仕し、地域社会の発展に貢献する希望を抱く人材を求め、

自己点検・自己評価

本大学院が掲げる「医療・医薬品開発現場の中心的役割を担える薬剤師や研究者を高い水準で養成する教育」は、本学の学部教育のポリシーと一貫している。本学薬学部学生は本ポリシーの基で研鑽を積むことで、日本薬学会において優秀発表賞などを受賞している。本学の薬学部学生の教育に携わるスタッフは大学院教育をほぼ兼任しており、高い水準で教育を行う事ができると判断する。また、「医療現場で薬物治療の専門職として指導的役割を果たす薬剤師の養成」に関しては、国立大学法人高知大学医学部附属病院薬剤部から現役の薬剤師を社会人大学院生として受け入れていることから、実現していると考えられる。これらのことから本大学院のアドミッションポリシーに適応した学生を入学させることができたと考える。

- ・ 学部教育と大学院との連続性についても記載すること

ホームページのリンク先

<http://p.bunri-u.ac.jp/graduateschool/index.html>

受験資格

一般的な受験資格である6年制薬学部を卒業した者(卒業見込みを含む)及び旧薬学教育課程の修士課程を修了した者で薬剤師免許を有している者を除き、貴学の受験資格について該当するものに○を付すこと

(複数回答可)

- 1. 6年制課程(医学部、歯学部、獣医学の学部)を卒業した者
- 2. 外国において学校教育における18年の課程(最終の課程は、医学、歯学、薬学または獣医学)を修了した者
- 3. 修士課程を修了した者(薬科学)
- 4. 薬学以外の修士課程を修了した者
- 5. 旧薬学教育課程の学部を卒業した者(学力認定※)
- 6. その他(学力認定)大学院において、個別の入学資格審査により、6年制の大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、24歳に達したものの

- ・ 4. の場合は、どのような人材を養成するのかについて下記に記載すること
- ・ 薬剤師免許を有していない者について、どのような人材を養成するかについても同様に下記に記載すること
- ・ 5. 6. について、学力認定を行う場合、その審査基準(具体的に求める研究歴や職務経験年数等について)を下記に記載すること

薬学以外の修士課程を修了した者、薬剤師免許を有していない者を受け入れる場合の受験資格の学力認定は、成績証明書により検定する。受験資格の検定において、研究歴や職務経験の年数は特に決めていないが、受験時の口頭試問において、それまでに行った研究内容を発表させ、それに対して質疑応答することにより適宜柔軟に審査を行うことで、研究や職務に関する審査は可能である。薬学以外の修士課程を修了した者、薬剤師免許を有していない者は、創薬・医薬品開発・医療サポートの専門家を目指す。

○ 入学者選抜の方法

英語試験（生物もしくは化学の中から選択）
 小論文（社会人）
 面接（研究内容などを発表後、大学院教員による質疑応答）

自己点検・自己評価
 英語論文の和訳などの問題を課しており、研究に必要な英語論文を読解できる能力を検定できている。また研究能力については、面接において卒業論文・修士論文に関する発表・質疑応答を課しており、検定できている。それらのことから実効性のある入試ができていると考えられる。社会人においては、小論文を課し、志望動機などを精査し、受験資格に合わせた実効性のある入学者選抜を行った。

- ・ 試験内容を記載するとともに、受験資格に合わせた実効性のある入学者選抜の工夫について自己点検・評価すること

○ 入学者数(平成24年度) 6 人
 (内訳:6年制学部卒業生 3名、社会人 2名、4年制学部卒業&修士修了 1名)

自己点検・自己評価
 定員と同数の入学者であり、また医師と薬剤師の社会人2名を含む多様な分野から人材が選択できたことで、入学選抜は評価できる。

○ カリキュラムポリシー

専門領域分野として以下の分野を設置した。①医療・薬物療法分野：薬を用い医療の現場で高度な知識を駆使できる人材を養成することを目的とする。②健康・高齢者医療分野：高齢化社会に備え、健康科学をリードする人材を養成することを目的とする。③医薬品開発・高度医療分野：新薬開発の中心的役割を担える人材を養成することを目的とする。④医療解析・医療安全分野：副作用情報を解析し、薬物療法の安全性を高める人材を養成することを目的とする。

1. 演習科目により、英語論文を読みまとめてプレゼンテーションする、さらに自分の研究内容を発表する能力を養う。
2. 研究科目では各研究室で研究を実践する。
3. 選択専門科目では、各専門分野の高度な知識を得る。

自己点検・自己評価

入学した大学院生は、研究・演習・選択専門科目を既に履修し始めており、本ポリシーに沿った大学院教育は順調に進行している。

- ・ 薬学部出身者以外の卒業生についても記載すること
ホームページのリンク先

<http://p.bunri-u.ac.jp/graduateschool/index.html>

○ カリキュラムの内容

1年もしくは2年次に、選択専門科目から修了に必要な9科目を履修する。1年次に研究室毎に実施される文献検索・紹介および発表法と論文作成法等を主体とする「薬学演習Ⅰ」及び所属研究室において設定された「薬学専門研究Ⅰ」の履修を開始する。3月に研究成果の進捗状況についてレポートを作成し、各指導教員に報告する。2年次では、必要な場合は選択専門科目を履修すると同時に「薬学演習Ⅰ」及び「薬学専門研究Ⅰ」を継続履修し、研究の途中成果を学会等で発表する。3年次も2年次と同様に研究を中心とする研究室活動を継続する。3月末に研究成果の進捗状況についてレポートを作成し、各指導教員に報告する。4年次では、研究成果の論文発表の準備を始め、7月頃に研究成果を審査過程（ピア・レビュー）がある英文学術論文誌に投稿する。研究成果が1報以上の学術論文として公表されている条件で、12月に博士論文の内審査を受ける。内審査に合格したら、博士學位論文作成を開始し、2月に提出する。3月に研究成果を発表することで本審査（最終試験）を受ける。

自己点検・自己評価

授業科目は別冊の要覧を見ると分かるように、64人の大学院教員、49の選択専門科目、36の専門研究科目、36の演習科目が用意されており、充実した大学院となっている。現1年次学生の博士論文研究テーマ（予定）は以下のものである。

1. ウエルシュ菌 α 毒素と ϵ 毒素の作用機構の解析
2. C型ウエルシュ菌の病原性解明と治療薬の開発
3. 病原性ウエルシュ菌における保有プラスミドの遺伝子解析
4. 神経栄養因子活性天然物の合成と作用機構解析
5. グアニン酸化損傷から生じる点突然変異の回避機構の解明
6. 微粒子化NSAIDsの皮膚透過性および生体内動態に関する研究

上記研究テーマは、理念で求められている「臨床薬学・医療薬学に関する教育研究」に対して、病原菌やアルツハイマー病、NSAIDsといった実際の臨床現場で重要な疾患と研究を繋げる課題となっており、理念を合致している。3のテーマは医師の社会人入学生、6のテーマは薬剤師の社会人入学生が行っており、その意味でも「臨床薬学・医療薬学に関する教育研究」という理念に沿ったものとなっている。

シラバス、履修モデルは添付を参照のこと。

- ・ カリキュラムの内容が設置の理念を達成するものとしてふさわしいかについて記載すること
- ・ 設置されている授業科目が博士課程で扱う内容としてふさわしいものであるかについて自己点検・評価すること
- ・ 博士論文の研究テーマ(予定)についても明示すること
- ・ 別途シラバス及び教育課程等の概要(別紙様式第2号)を添付すること
- ・ 履修モデルを添付すること

- 博士論文の研究を推進するために医療提供施設との連携体制をどのようにとるか（予定を含む）について以下に記載すること

高知大学医学部・附属病院と学部間連携により、創薬（新しい医薬品を開発）教育だけでなく、育薬（新しい薬効や適用法を開発）教育が展開できる体制を構築し、医薬共同研究を推進する予定である。徳島赤十字病院隣接地に「実習支援センター」を設立しており、この施設を拠点に徳島赤十字病院と連携し、薬物治療等の最新の医療を共同学習する予定である。香川大学医学部とも学術交流協定を締結しており、共同教育・共同研究を推進している。さらに、香川大学医学部・香川県立保健医療大学との三者は、文部科学省の戦略的大学連携支援事業による「高度な医療人養成のための地域連携型総合医療教育研究コンソーシアム」を形成しており、総合医療人養成が可能となっている。

- 学位審査体制・修了要件

修了に必要な要件は「薬学演習Ⅰ」4単位と「薬学専門研究Ⅰ」12単位の必修科目計16単位と選択専門科目18単位（9科目）以上、計34単位以上を修得し、かつ博士論文の審査及び最終試験に合格しなければならないこととする。博士学位論文の基礎となる報文は1編以上審査制度のある英文学術雑誌（ピア・レビューあり）に印刷公表されていなければならない。博士の論文審査委員の構成：（1）主査：学位論文の分野に最も近い○合教授1名。但し主指導教員を除く。（2）副査：学位論文に関係ある分野の○合教授または○合准教授もしくは○合講師2名。博士学位論文の審査は内審査、論文の査読および本審査によって行う。本審査では論文の口頭発表を行う。（博士論文審査において英語および学力確認のための学力試験をおこなう。ただし、入試で審査が済んでいる場合は、英語の試験は免除される。）

- ・ 英文学術雑誌（ピア・レビューあり）などに掲載（予定も含む）されていることを条件とするなどの学位審査要件についても記載すること

- ディプロマポリシー

上記学位修了要件を満たし、大学院研究科委員会で合格と認めたものに博士の学位を授与する。本大学院を修了したものは、以下の進路を想定している。医療の高度化により、医療現場における本博士課程修了者の活躍の場は広い。本研究科独自の研究に基づく専門教育システムの成果である高度な知識と問題解決能力を生かし、医薬品の研究・開発など製薬企業や関連業界で活躍する専門家となる。例として、高度な専門的技量を備えた指導的役割を果たせる薬剤師、地域医療の先導的役割を担う薬剤師、治験コーディネーター、薬学分野の大学教員、製薬企業の医薬品研究・開発従事者および創薬研究者、食品・栄養関連分野の研究者・教育者となる。薬学部出身者以外の卒業生は、治験コーディネーター、薬学分野の大学教員、製薬企業の医薬品研究・開発従事者および創薬研究者、食品・栄養関連分野の研究者・教育者になることが期待される。

- ・ 薬学部出身者以外の卒業生についても記載すること
- ・ 養成する人材像を具体的に記載すること

ホームページのリンク先

<http://p.bunri-u.ac.jp/graduateschool/index.html>